

第3回新情報システム学体系調査研究委員会の開催のご案内

新情報システム学体系調査研究委員会
委員長 杉野 隆
副委員長 伊藤重隆

新情報システム学体系調査研究委員会から第3回研究委員会の開催を御案内します。講演後に、情報システム学体系に向けた討議を講師・参加者間で行います。皆様、奮ってご参加ください。

記

日時 20010年2月27日(土) 13時30分～17時

会場 専修大学神田キャンパス7号館782教室

地図はこちら：

http://www.senshu-u.ac.jp/univguide/campus_info/kanda_campus/index.html

講演と討議のテーマ

「ソフトウェア工学における哲学・言語の役割

－MASPの概念データモデリングをケーススタディとして－

講師 同志社大学大学院・工学研究科/総合政策科学研究科) 教授 金田重郎氏

講演概要

多くのソフトウェア工学手法は、海外からの輸入品である。とりわけ、要求分析(モデリング)は、対象世界を認識し、それを言葉で表現する以上、手法を生んだ民族の世界観・言語の影響を受けているはずである。それにもかかわらず、我が国のソフトウェア教育では、表面的に手法のみを導入し、「習うより慣れろ」的指導が行なわれてきた。それは、正しいアプローチなのだろうか。このような視点に基づき、本報告では、MASPの「概念データモデリング」を例にとり、それを支えるオブジェクト指向がプラグマティズム哲学そのものであることを示す。そして、日本語の特性を認識することなく、ヒアリング結果と海外の手法をリンクさせることへの疑問を提起する。

準備のため、参加ご希望の方は、事前にご連絡をお願いします。

杉野<sugino_kokushikan.ac.jp>, または伊藤<shigetaka.itou_mizuho-ir.co.jp>
メールアドレスの■は@に置き換えてください。

以上